

読賣新聞

2012年(平成24年)

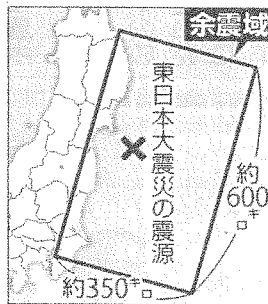
3月9日 金曜日

震度4以上の余震231回

気象庁は8日、東日本大震災後から7日までの約1年間、最大震度4以上の地震が、余震域で計231回起きたと発表した。この余震域で2010年までの10年間に起きた最大震度4以上の地震は年平均9・8回で、約24倍の地震

が起きていたことになる。同庁は、今後も震度5弱以上の余震が起きる可能性があるとして、警戒が必要としている。余震域は、岩手県沖から茨城県沖の南北約600キロ、東西約350キロの範囲。同庁はここを震源とする地震を「大

震災後1年間で



震災の余震」としている。震災後、震度4以上の余震は、昨年3月109回、4月50回、先月には6回と減少はしているが、今月1日も茨城県

沖を震源とする震度5弱の余震が発生するなど、依然、活発な状況が続く。震度1以上では7225回に上り、日本全国で起きた震度1以上の地震1万120回のうち、約7割が余震域で起きていた。余震域以外でも、静岡や長野、秋田などを震源とする震度5弱以上の地震が18回あった。同庁は、日本全体で地震活動が活発になっているとみている。